

令和2年2月6日

令和元年度病害虫防除技術情報（第1号）

和歌山県農作物病害虫防除所

タマネギベと病の発生状況について

県北部の早生タマネギにおいて、べと病の越年罹病株の発生が認められました。早めに防除を開始しましょう。

1. 対象作物 タマネギ
2. 対象地域 県北部
3. 発生時期 2～6月
4. 発生状況
 - 1) 2月上旬の県北部におけるタマネギべと病の越年罹病株の発生ほ場率は3%、発病株率は0.03%であり、前年より早い（表1）。
 - 2) 2月上旬の県北部におけるタマネギべと病の二次感染株は認められていない。

表1 県北部におけるタマネギべと病の越年罹病株の発生状況

調査年月日	令和2年		平成31年	
	1月21日	2月5日	2月5日	2月22日
調査ほ場数	28	29	24	32
発生ほ場率(%)	0	3	0	3
発病株率(%)	0.00	0.03	0.00	0.03

注) 調査場所: 和歌山市、岩出市、紀の川市、かつらぎ町



写真1 越年罹病株

5. 発生予想
春期の感染源となる越年罹病株の発生が、前年より早い2月上旬に認められた。本病は、気温15℃前後で曇雨天が続く気象条件で感染しやすくなる。今後の気象条件により発生の増加が懸念される。
6. 防除対策
 - 1) 前年に発生が多かったほ場は、本年も発生しやすいので注意する。
 - 2) ほ場をこまめに見回り、越年罹病株の早期発見と抜き取りを徹底する。抜き取った株は袋に入れ、ほ場の外に持ち出して適切に処分し、早急に薬剤散布を行う。
 - 3) 発生が認められない場合においても、定期的な予防散布に努める。二次感染株が認められた場合は、早急に薬剤散布を行う。
 - 4) 薬剤の感受性低下を防ぐため、同一系統の薬剤は連用しない。
 - 5) 排水を良好にし、降雨による浸冠水や停滞水をなくす。
 - 6) 農薬については、（独）農林水産消費安全技術センターの農薬登録情報提供システム (https://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm) で最新の登録情報を参照し、適正に使用する。

担当：農作物病害虫防除所
電話：0736-64-2300